

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072600446
法人名	有限会社 たじま
事業所名	グループホーム かやの木
所在地	群馬県吾妻郡中之条町大字中之条町1775-1
自己評価作成日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://h-tajima.info/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号
訪問調査日	平成30年8月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が高齢者のため、無理をせず主治医と連携を取りながら健康の管理をし、入居者の持っている機能や、体力の現状維持を目標として毎日の生活を入居者のペースに合わせて過ごしていただけるよう心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

併設の病院との連携が密にとれる体制が整っており、利用者の健康状態の変化に応じた対応が速やかにとられており、家族の安心につながっている。開設当初から続いている月2回の音楽療法は、利用者の定期的な楽しみとなっており、情緒の安定にも生かされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎週水曜日の会議後のミーティングの際に、理念に添って実践されているかどうか、毎朝の申し送りにて確認している。	朝のミーティングで理念と服務規定を確認している。新人職員教育には、担当者を設けている。職員同志が言葉づかいなど、お互いに注意しあえる環境を作っていきたいと考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者の状態に合わせて地域行事にはなるべく参加するようにしている。	正月の「とりおい祭り」が併設病院の玄関前で行われる際には出向いている。車いすを使用している利用者が多く、またホーム玄関前が坂道のため、外出が難しい状況である。	地域に出かけ、社会や住民とふれあう機会を持つ事は利用者の意欲や表情の変化に通じる事と考えられる。個別支援の取り組みとして検討してはどうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症相談窓口であることを面会などで来所された方々にお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の時に施設行事を行い、見学・参加もしていただいている。その後に感想や意見をいただき次回に生かしている。	同法人のグループホームと合同で、防災訓練や誕生日会などの行事も行いながら、行政担当者や地域代表者も参加して年6回の運営推進会議を開催している。行事の際には家族の参加もある。	防災訓練に参加した家族からは、要望や意見も出されており、参加していない家族に、会議録を配布し、意見を集約してはどうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と利用者情報の連絡相談を行っている。	管理者は必要な事を行政に報告し、相談もしている。介護保険更新のための認定調査には、立ち合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に全職員理解を深め、取り組んでいる。	法人で身体拘束廃止委員会を作り、研修も行っている。言葉による拘束がないよう意識して取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	声掛け、態度など気づいた時に、その都度対応しミーティングを行い、防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、理解を深めるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居などの際にご家族に説明し、理解していただいてから契約書に捺印、交付させていただくように進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会時などに気軽に話してもらえような雰囲気づくりをし、笑顔で接するように心がけている。	面会時に家族から要望のあった事は、支援に取り入れている。	家族が意見を出しやすいよう、利用者の生活状況を伝えたり居室の様子などを見てもらうなど、ホームからの声掛けや情報提供を積極的に働きかけてはいかか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを定期的(毎週水曜日)に行い、意見交換の時間を設けている。	申し送りの際に意見交換やケアの共有・要望を確認している。法人の役職者会議には管理者が出席しており、会議録を職員は確認している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者には就業環境の設備に努力していただいている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者には職員を育てる取り組みに努力していただいている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各研修やグループホーム大会に参加し、交流の機会を持つように努めている。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際にアセスメントをし、ADLに気を付けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困ったこと、不安なことを理解するように全職員で努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを取り、必要なサービスを理解するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の不安や苦しみ、喜びを知ることにより、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が安心できるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係継続に努めているが、家族や知人の面会が少ない。	入居時に馴染みの物を持ってきてもらうよう伝えており、習慣になっている化粧品を使い続けている利用者もいる。毎週面会に来所している家族や近所の知人が訪ねてくれる利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話に耳を傾け、問題行動や会話があった時にはすぐに対応し、楽しく生活が出来るように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や面会時に家族の方より話を伺い、出来るだけ希望に応えられるように努め、困難な場合は検討し近づけるように努めている。	利用者の思いを日常会話の中で受けとめるよう心がけている。家族からも面会時に要望を聞いている。	利用者の思いを受け止め具体的に実践する事で、意欲や気力も向上してくると思われる。利用者の意思が表現できる選択場面の設定や個別支援の再考を検討してはいかがか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックし健康状態を記録、情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に行われる担当者会議、往診時、受診時などに話し合いの場を持ち、介護計画作成に活かしている。	毎月モニタリングを行い、担当者会議も開いている。介護計画の見直しは3カ月ごとに行っている。	介護計画が支援の柱である事を意識し、日々の記録が計画に沿った内容になるように取り組んでほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録用紙の記載、業務日誌の記録を行って情報を共有し、変化があった際には見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況の変化があった場合、支援方法の検討を行う。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター、民生委員、老人会、地域の方々などと話し合いの機会を持ち、必要な時には協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期の診察、体調の変化があった時の受診、利用者または家族の希望時にはかかりつけ医への受診を行っている。	入居時に説明し入居前のかかりつけ医か事業所の協力医を選択できる。協力医が毎月1回、定期の診察に訪問している。歯科受診や訪問看護も必要時に利用できるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する病院の看護師へ相談し、必要な場合はすぐ受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	隣接する病院との連携を行い、医師からの入退院時の状態説明時には施設職員も同席させて頂き、今後の方針を話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化が見られた場合は受診し、医師からの状態説明が必要な時に家族へ連絡し話し合いの機会を持つようにしている。	併設病院との連携を図り、状況に応じて主治医から家族に説明している。事業所での看取り支援の方針はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接する病院への報告、連絡、相談を徹底することで急変や事故対応時に備えている。 隣接する医療機関での研修に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設での防災訓練を実施し、消防署に協力をお願いしている。関連施設での防災訓練にも参加している。	総合訓練と消火避難誘導の訓練を1回ずつ行っている。この数年間消防署の立合い指導はない。事業所独自の備蓄の用意はしていない。	家族の意見や反省点を生かした自主訓練の実施や、消防署からの助言が得られるよう参加要請を続けていただきたい。食料品などの備蓄を検討してはいいかがか。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の研修会に参加し、対応の言葉や態度に注意している。	法人が開く接遇研修会に参加している。言葉使いや利用者を敬い尊厳に関する内容やプライバシー等の学習を通し、職員同士で互いに注意しあえるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	支援をしているが、認知症がすすんでいて自己決定できない方も多い。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員で話し合いをし、希望にそった支援が出来るように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容は定期的な散髪をしている。また、利用者の希望により顔そりなどを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みのメニューを検討している。 季節感のあるメニューを心掛けている。	食事の献立は病院で出されるメニューを参考にし、事業所で作っている。職員も一緒に食事をしており、利用者のペースに合わせて介助するように心がけている。	季節感のある一品や手作りおやつ等、利用者も料理に参加しながら楽しむことができる取り組みも検討してはどうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接の医療機関からのサマリーの情報を参考にし、管理栄養士にも相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの用意をし、声掛けや歯磨きの介助をし、夕食後は義歯洗浄を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ介助、誘導を行っている。また、行動やしぐさ、様子などから排泄を理解し、随時の介助、誘導を行っている。	チェック表をもとに定時の排せつ介助の他、要望に応じて随時の支援やそれぞれのサインを見逃さないようにして声掛け誘導の支援を行っている。昼間でも、ポータブルトイレを使用をしている利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認や便意がある時の様子を把握し、スムーズな排便を介護内容として共有している。毎日乳製品を摂取し、日常生活の中に運動も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴介助が必要なため、予定を立てさせていただいている。	週2回は入浴できるよう支援している。毎日入浴できる事を知らせており、連日入浴をしている利用者もいる。シャワー浴・足浴・清拭支援もしている。入浴の楽しみの一つに、バスの花びらを浴槽に浮かべる事もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣によりゆっくりとテレビや音楽を聴くなど、個々に対応している。休む時間も個々に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬剤情報提供書を確認し、状態の変化に気づくように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみの手伝い、ぬり絵や折り紙などと利用者の得意なこと、好きなことを理解し、生活の中に組み込んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	それぞれの身体状況で外出は難しくなっている。当施設や関連施設でのレクリエーションの行事を企画し、楽しみのある生活になるように支援している。	家族と一緒に外出したり、ドライブに出かける利用者がいる。車いす利用者が多い為、日常的な外出やドライブなどは実施していない。	外出ができない利用者を基準にせず、個別の支援や楽しみを実現できるよう検討し、戸外に出かける環境や機会を作してほしい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の管理をお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要な場合は職員が対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間の整理整頓に努めている。 音楽、テレビの音量に注意している。 季節感を感じられる飾りつけを心掛けている。	1階と2階に分かれている2ユニットである。 季節の飾り付けがされている。月日がはっきりとわかる見やすいカレンダーも掲示されている。館内は気になる臭いはない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの他に玄関先や廊下にもソファやテーブルを用意し、だれとでも過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者の暮らしやすいように家具等を配置し、可能なものは家から持ち込みをしていただいている。	居室に筆筒や縫いぐるみ、習慣で使っていた化粧品などが揃っている利用者もいる。昼間でもポータブルトイレを置いている居室がある。	面会時には居室で家族と一緒に過ごしてもらえるように、心地よい居室作りを家族も交えて話し合ってみてはいいかがか。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ適した居室を検討する。 家具等の配置に注意し、安全に努めている。		